南山っ子通信

長崎南山小学校
学校生活だより
平成２８年７月号
２０１６．７．１９
NO．４８

聖書の読み方・使い方

心が砕かれ，人生の暗闇に落ち込んでしまったひとりの日本人の若者がいた。進む道を見出そうと旅に出たが迷いからは抜け出せず，失意のままブラジルの地に辿り着いた。そこで，救いを宗教に求めようと思いついた若者は，ある教会の前に立ち，門を叩いた。中からはスータンと呼ばれる黒い司祭服を着た年老いたブラジル人が出てきた。サントス神父様である。

「神の教えについて知りたいのです。お願いします，どうか教えてください。」

切実な若者の訴えに，サントス神父様は，昔おじいさんから教えてもらった日本語を使い，落ち着いてゆっくりと話した。

「ハーイ，友よ，わたしに聞くより，心を安らかにしてこの聖書を読んでクダサーイ。」

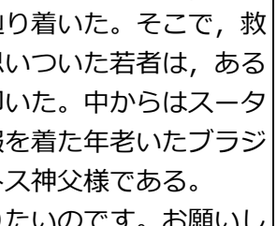
渡された聖書を手にした若者は尋ねた。

「この分厚い聖書のどこから読めばいいのですか。」

サントス神父様は答えた。

「聖書は神の言葉デース，どこを読んでもいいデース。目を閉じてパッと開き指を置いたところを味わってクダサーイ。そこに書かれてある言葉が神からあなたへの大切なメッセージデース。」

宿に帰った若者は，夜，静かな時間をつくり心を落ち着かせて聖書を開き，開いたページにパッと指を置いた。指の下にあった聖句は，



「そこで，ユダは銀貨を神殿に投げ込んで立ち去り，首をつって死んだ」

（マタイ２７章５節）であった。

死ぬことが神からのメッセージだとは到底思えない若者は，

「神様，とんでもないことです。どうか私にももっと必要なお言葉を……」

こう言って再び目をつむり，聖書を開いて指で差し，静かに目を開いて示された二度目の聖句を読み始めた。

「行ってあなたも同じようにしなさい」

（ルカ１０章３７節）

驚いた若者は，心の中で声を荒げて言った。

「神様どうか冗談はよしてください。ほんとに冗談はよしてください。私を助けてください。何をしたら救われるのかどうか教えてください。救われたいのです。」

心の中でうめきながら，若者は最後にもう一度目をつむり，聖書を開いて指で差し，そして読み始めた。若者が最後の望みをかけて目にした三度目の聖句は次の言葉であった。

「あなたがしようとしていることを，今すぐしなさい。」（ヨハネ１３章２７節）

完全に落ち込んでしまった若者は神からも離れ，再び彷徨いの旅を続けることになってしまった。

人に聞いたり自分で調べたりしたものにオリジナリティを加えて作り直した笑い話です。世界のベストセラーともTHE BOOKとも称される聖書ですが，使い方や読み方，あるいは解釈のしかたを一歩間違えると，人の人生を大きく狂わせてしまいかねないということを教えた笑い話です。

長崎のカトリック教会には，「聖書愛読運動」という教区をあげての取り組みがあります。「今年はマルコ福音書を読もう」とか「今年はルカ福音書を読んで聖書の勉強をしよう」などと，各教会では主任神父様の指導の下に毎年目標を決めて取り組んでいます。

正しい読み方で聖書に親しむことは信仰を深めていくうえで大事なことです。文脈を無視した部分解釈や間違った解釈をしたり，占いや当たりくじの感覚で聖書を読むことのないように気をつけなければいけません。

聖書を読んでいて解釈が分からない場合には身近な神父様方に尋ねてみられては如何でしょうか。カトリック西町教会には３人の神父様方がおられます。また，近くの教会の神父様にお尋ねになられてもいいかと思います。

親子の会話＞携帯・スマホ

便利で確かにいいものではあるが使い方を一歩誤ると大きな負の効果を生んでしまうものが聖書の他にもあります。携帯電話でありスマートフォン（スマホ）のことです。

ある企業が行った「子どものＩＣＴ利用実態調査」によると，スマホを含めた携帯電話の所有率は小学生で30.6%，中学生では47.8%，高校生では92.3%にもなるそうです。これは昨年度の調査であり，年々伸びているという報告もされています。南山小学校でも毎年携帯電話に関する実態調査を行っていますが，広範囲から通学している本校の児童の場合は上記の調査結果よりも高い所有率を示しています。

携帯電話やスマホに潜んでいる問題や危険の事例は小学生のうちはそれほど多くはなくても，中学生・高校生になってくると一気に顕著に現れ始めます。具体的には以下のような問題です。

・携帯電話・スマホへの依存
・生活や学習習慣の乱れ
・コミュニケーション能力の低下
・プライバシー（個人情報）の流出
・誹謗（ひぼう）・中傷・いじめ
・「ながら操作」による交通事故
・有害サイトへのアクセス
・見知らぬ人との出会いによるトラブル
・ワンクリック詐欺，架空請求（経済被害）

以上の一つ一つについて詳しくは記せませんが，今回問題にしたいのは，親子団らんの時間が携帯電話やスマホに奪われてしまってはいないかということです。携帯電話やスマホに束縛され振り回されるあまりに，それらの着信音には素早く反応しても親の呼びかけは聞こうとしない，あるいは聞こえてこないといった子どもがいないでしょうか。反対に，食事や家事の最中もスマホを手放せない親が子どもの声を無視してしまうといった「スマホネグレクト」のことも新たな社会問題として取り上げられるようになってきました。楽しい会話が溢れる温かい親子の関係の中で育つはずの子どもが，携帯電話やスマホに支配された生活の中で育つことがないように十分に注意していかなければならない時代になってきているようです。

中学生以降に顕著に現れる諸問題を予防する意味でも小学生のうちから携帯電話やスマホに関するルールを家庭内で決めておくことの重要性が叫ばれています。一例を紹介します。

・自分の電話番号やメールアドレスをむやみに教えない。
・夜９時以降は携帯電話をさわらない。
・勉強中，食事中は電話もメールもしない。
・携帯電話の保管，充電場所は居間にする。
・携帯電話は自分の部屋に持ち込まない。
・友達とはメールではなく，直接対話することを大事にする。
・面と向かって言えないことはメールでも言わない。

いよいよ夏休み，携帯電話やスマホの使用頻度も今まで以上に高まってきます。それぞれの家庭で使用ルールについては親子で確認をされておいてください。

♪　やさしい目が

1 やさしい目が　清らかな目が
　きょうも　わたしを　みていてくださる
　まっすぐに　歩きなさいと　みていてくださる

2 大きな手が　あたたかな手が
　きょうも　わたしを　ささえてくださる
　はなれずに　歩きなさいと　ささえてくださる